

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録 (2013.03) 平成23年度:113-118.

「小児病棟看護師の災害に関する認識と課題の検討」
～小児病棟用ケアパッケージを導入して～

外川恵子、塩谷今日子

「小児病棟看護師の災害に関する認識と課題の検討」 ～小児病棟用ケアパッケージを導入して～

4階西ナーステーション ○外川 恵子、塩谷今日子

目的

A大学病院はがん治療拠点病院であり当病棟は小児診療統合センターとして多様で複雑な治療を担っている。この患者背景が実際の災害時の避難を難しくすると推測される。

2010年12月医師と連携して災害時の安全対策推進として「ドレーン・チューブ類の取り扱い」や「避難時の役割分担」などを検討する機会を得たが知識は時間とともに薄れやすく定着化の困難性が予測された。そこで今回兵庫県立大学看護研究科21世紀COEプログラム小児班が開発した「小児病棟用ケアパッケージ」を活用し災害リスクを想定することで病棟看護師の災害への意識と行動実態を知り防災教育の示唆を得たので報告する。

方法

対象は小児科病棟看護師27名

「小児病棟用ケアパッケージ」を導入し3分間シミュレーションを業務開始前に実施した。研究者の同意を得て質問調査用紙により導入前・1ヶ月後・2ヶ月後・3ヶ月後の「知識」「意識」「行動」の変化を4回調査し統計処理にて分析した。調査用紙の最後に自由記述欄を設け

内容をカテゴリー化し考察した。

倫理的配慮は研究意図とプライバシーの保護について口頭と文書にて説明し質問紙への記述によって同意を得た。

結果

導入前と導入1ヶ月後・2ヶ月後・3ヶ月後において病棟平均値は回数を重ねるごとに高く、全国平均値と比較し優位に高かった。フリードマン検定による群間比較でも有意差が認められた。

まとめ

災害経験はない看護師の集団であったが、シミュレーション教育を実施することで防災の認識と行動化は促進された。3月の東日本大震災前後の調査でもあり想定外の事態に備え迅速な判断や病棟の災害マニュアルをより具体化し日常的に繰り返す教育訓練の重要性が示唆された。

小児科病棟看護師の災害に関する 認識と課題の検討

「小児病棟用ケアパッケージを導入して」

旭川医科大学病院 小児科病棟
○外川恵子 塩谷今日子
2011年10月8日

はじめに

- がん治療拠点病院であり当小児病棟は小児診療総合センターとして、移植治療や感染症治療など感染コントロールが必要な疾患群や周手術期の循環動態の管理が必要な病態群の患者が入院している
- 骨髄移植用の無菌室やPICUに準じる回復室を抱えており、この多様で複雑な治療による患者背景が実際の災害時の避難を難しくさせる
- 2010年12月病棟医師と看護師協働で災害時の安全対策推進として「ドレーン・チューブの取り扱い」や「避難時の役割分担」について検討する機会を得た。しかし、「知識」は時間とともに劣化しやすく定着化の困難性が示唆された

近年の大災害発生により、災害対策への意識は高まり病院の災害の備えとして阪神・淡路大震災の経験を基に兵庫県立大学看護研究科21世紀COEプログラム小児班が「小児病棟用ケアパッケージ」を開発し、国内の小児病棟や外来などで活用が報告されている。今回、「小児病棟用ケアパッケージ」を導入し、災害リスクを想定することで小児科病棟看護師の災害への「意識」と「行動実態」を知り、防災教育の示唆を得たので報告する

I. 研究目的

病棟看護師が日常的に災害リスクを想定したイメージトレーニングを実施したことで災害に関する認識と課題を明らかにする

II. 研究方法

1) 研究方法

- ・対象:A大学病院の小児科病棟看護師27名
- ・方法:①「小児ケアパッケージ」(以下ケアパッケージ)についてパンフレット・DVDをもちいて説明する
- ②病棟内ルール(避難経路・避難役割分担・ドレーン・チューブ取り扱い方法)を確認するケア項目の3分間シミュレーションを業務開始前に毎日各自実施する
- ③日勤業務時に3分間シミュレーションケア項目の内容を提示しあう時間を設ける
- ④ケアパッケージを導入前(1回目)・1ヶ月後(2回目)・2ヶ月後(3回目)・3ヶ月後(4回目)の「知識」「意識」「行動」について質問紙により調査をする
- ⑤得られた内容は各自にフィードバックする

2) 研究期間

2010年12月～2011年10月

3) データ収集方法

- ・先行研究による質問調査用紙を用いて20項目の内容について調査を実施する
- ・調査用紙の最後に意見・感想の自由記述欄を設ける

4) データ分析方法

- ・調査用紙の「知識」8項目「意識」5項目「行動」7項目を4段階評価で点数化する
- ・ケアパッケージ導入による認識の変化を平均値とフリードマン検定にて統計処理し $P < 0.05$ にて有意差ありと分析する
- ・自由記載の内容は質的にカテゴリー化する

5) 倫理的配慮

- 対象者である小児科病棟看護師に研究の目的・意義・プライバシーの保護について口頭と文書にて説明し、質問紙への記述によって同意を得る
- 個人が特定されないようにパスワードでデータ処理をする

III. 結果

■ アンケート回収率100%

1) 対象の属性

看護師27名
勤務体制:3交代 4人夜勤
被災体験者:なし
臨床経験:20年目以上2名・20～10年目4名
10～4年目6名・3年目以下15名
小児科病棟経験年数:4年目以上12名
4年未満15名

2) シミュレーションの実際

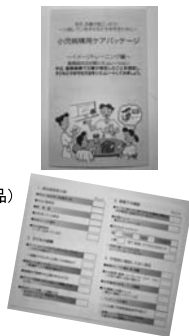
ケアパッケージのパンフレットとDVD

- 病棟の把握
- 子どもの避難
- 子どもたちを守るために
 - ME機器装着中・使用中の子どもたち
 - 点滴やチューブが付いている子どもたち
 - 酸素管理中の子どもたち
- 病室での確認



小児病棟用ケアパッケージ:3分間シミュレーションケア項目

- 現在勤務者の数
 - 現在勤務帯の看護師の数
 - 今日の勤務者
 - 患者数
 - 付き添っている家族
 - 救急カートの場所
 - 安否確認表の場所
- 子供の避難
 - すぐかけつけなければいけない子供 (今日の状態? 避難するときに必要となる物品)
 - 担送が必要な子供(看護師一人で搬送可能?)
 - 看護師が避難誘導する必要がある子供
 - 声がけや誘導があれば自力で避難できる子供
 - 感染防止を考慮した避難方法
 - 感染症の子供
 - 易感染の子供
 - 非感染の子供



- 病室での確認
 - すぐ切り替わる必要があるME機器の電源は非常電源に接続されているか
 - 充電チェック(最近のメンテナンス日)
 - 子供のベッドサイド (靴・マスク・毛布・バスタオル・上着)・落下しそうなものはないか
- 平常時に確認しておく項目
 - 酸素ボンベの場所・数・残量
 - 中央配管(酸素・コンプレッサーエアー・ガス)元栓の場所・元栓の閉め方
 - 非常電源を使用している機器
 - ME機器の充電チェック(最近のメンテナンス日・バッテリー交換日)
 - フル充電で何時間連続使用可能か?
 - 停電により設定がリセットされる可能性のある機器はどれか
- 病棟内で決めておく項目
 - 避難待機場所・避難経路(その場所・経路には物をおかない)
 - 退院・転棟・転院を想定した患者情報の提供方法
 - 病棟ルール

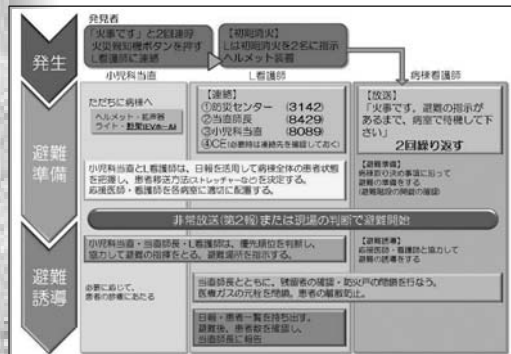
安全対策

災害時病棟取り決め事項

ルート	シエアブラグからはずす(V・CV) A・PIは、シリンジポンプをベッドに乗せてそのまま移動 硬膜外はそのまま
ドレーン	クランプ移動：胸腔・腹腔・脳室・膀胱 クランプ不要：SBバッグ・Jバッグ
薬剤	麻薬・鎮静剤・昇圧剤・降圧剤：そのまま移動 (抗癌剤・抗生剤などは中止してよい)
医療機器	人工呼吸器：アンビュー使用で移動(Dr・Ns) 透析：根元で接続外す(Dr・CE) 腹膜透析：根元で接続外す(Dr・Ns) 酸素：酸素を中止し、流量をメモ

4Wナースステーション(2010.10.10)

小児科病棟における災害時の役割分担



小児科病棟における避難訓練の実際

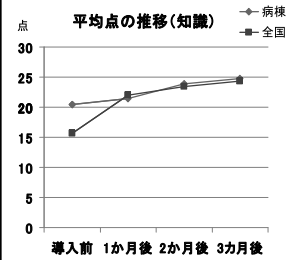


3) アンケートの集計

知識の平均

質問項目

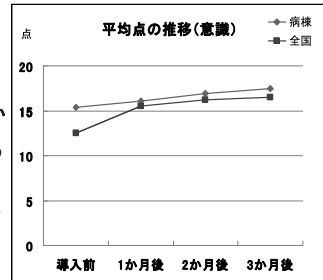
- あなたはME機器のメンテナンスを誰が行っているか知っていますか？
- あなたは防災マニュアルを読んで理解できましたか？
- あなたは病棟の酸素ボンベがどこに保管され、何本あるか把握していますか？
- あなたは救急カートの中に何ほどの程度どの位置に置かれているかを知っていますか？
- あなたは普段から災害が発生した時を想定して子供たちを搬送する方法について考えていますか？
- もうケアパッケージを使用しなくても、3分間シミュレーションを実施できる。
- いつ災害が起こっても子どもたちを守るための行動をとることができる。
- シミュレーションの時間以外に勤務中の災害の備えについて考えることができる。

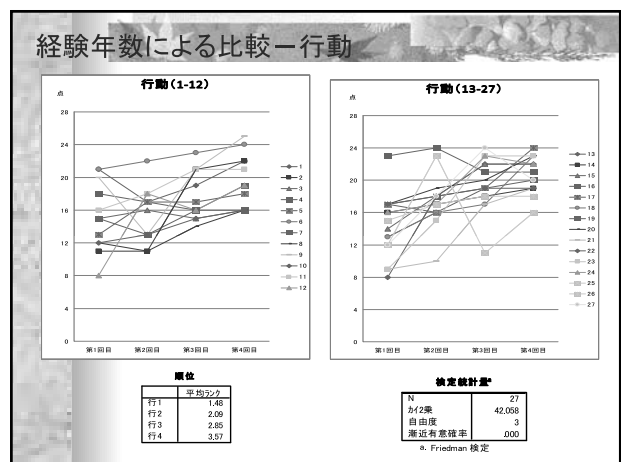
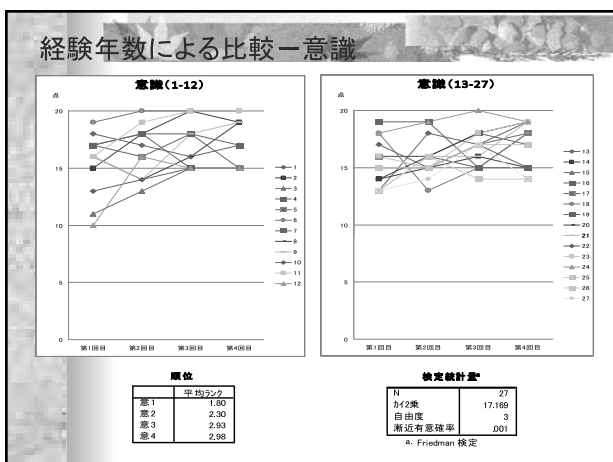
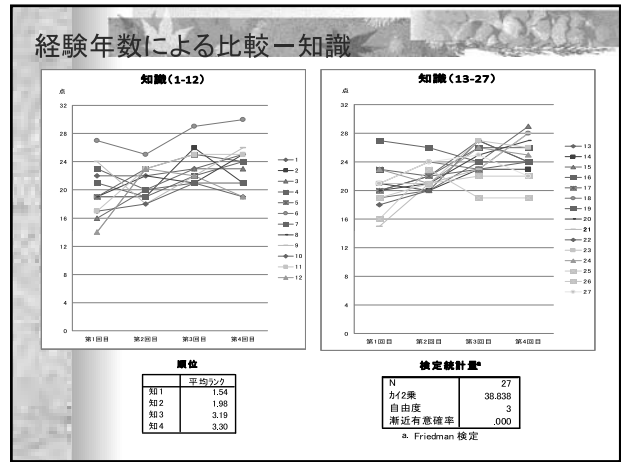
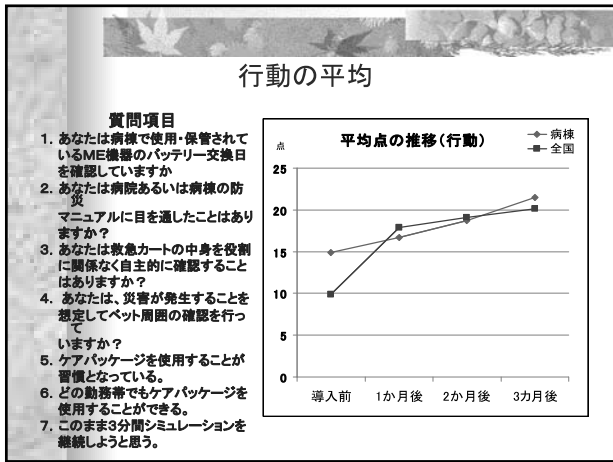


意識の平均

質問項目

- あなたはME機器のメンテナンスがいつの間に行われているか意識したことはありますか？
- あなたは出力が途絶えてはいけな医療機器が非常電源に繋がっていることを意識して勤務していますか？
- あなたはチームを超えた病棟全体の今日の勤務者は誰かを把握して勤務していますか？
- あなたは入院中の子どもに付き添い者または面会者がいるかを意識して勤務していますか？
- 災害の備えについて考えるようになった。





4) アンケートの自由記載

- ・**動機付け**: DVD視聴し災害を視覚的に想起できた
- ・**漠然から具体**: ケア項目を明確にしたことで患者の重症度の把握から避難経路や搬送方法・優先順位まで考えられた
- ・**チームで確認**: 自分だけでなく患児のベッド周囲を確認する機会が増えた
- ・**役割認識**: 臨床経験に関係なく患児や家族の安全が自分たちに委ねられていると感じた
- ・**災害の備え**: 大震災から日常から患児の重症度の把握・安否確認・迅速な判断が重要で実践のスキルアップが必要と思った
- ・**訓練習慣づける**: 大震災がおこり今回の取り組みを繰り返す行うことで、緊急事態のパニックの中でも落ち着いた行動ができるのではないかと思った

IV 考察

- 医療者には、火災や突発的な事故など瞬時に患児やその家族を避難誘導させなければならないあらゆる事態に備えての危機管理や安全管理の徹底をして患児と付き添いの家族の命を守る義務がある
- 看護管理者には災害を具体的にイメージし、行動に結びつける力が求められる

- 日常的に多職種と安全対策を実践
「ケアパッケージ」によりシミュレーションを繰り返すことでより病棟災害リスクが具体化
➡**経験年数にかかわらず防災の認識と行動が促進**
- 防災行動を「動機づけ」「漠然から具体化」「役割認識」をもち「チームで確認」しあう
「災害の備え」をして「訓練し習慣化」する
➡**災害教育が重要である**

まとめ

- 災害経験はない看護師の集団であったがシミュレーション教育を実施することで防災の認識と行動化は促進された
- 「想定外の事態の判断」の難しさや「病棟の災害マニュアルをより具体化し、日常的にチームで繰り返す教育訓練」の重要性が示唆された

引用・参考文献

- 1) 小児斑代表片田範子:
兵庫県立大学看護研究科21世紀COEプログラム
ユビキタス社会における災害看護拠点の形成・
小児病棟用ケアパッケージ
- 2) 畑由節末:
「災害看護経験を持つ看護管理者がとらえた看護
実践上の課題の検討」
第40回看護管理2009

おわりに

多職種と連携した災害教育プログラムを検討

